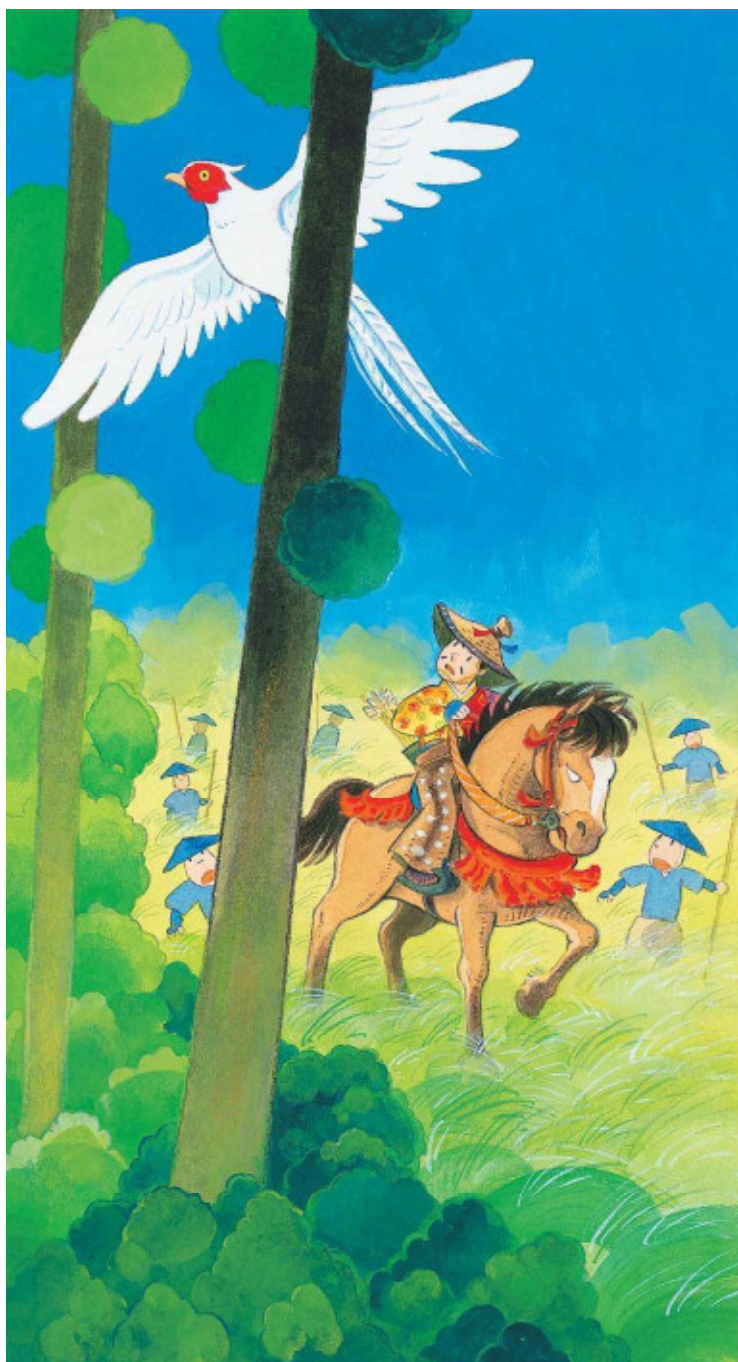


「広報しながわ」平成21（2009）年3月1日号より転載
（イラスト：池原昭治）



1日号連載企画「品川昔ばなし」は、この号が最終回となります。
ご愛読、どうもありがとうございました。
4月1日号からは、空から品川区を紹介する企画が始まりますので、ご期待ください。



雉子神社

五反田駅から五分ほど歩いたところに雉子神社（東五反田一丁目）があります。室町時代の文明年間（1469～1487）には「山の神の社」と呼ばれていましたが、のちに「キジ」にちなんで名前が付けられました。それには、次のような話があります。

山の神の社と呼ばれていたその昔、このお宮には、どこからか飛んで来た一羽のキジがいましたが、ある夜に死んでしまいました。かわいそうに思った村人がキジを大切に葬ったところ、その村人の夢の中に、よろいとかぶとを身につけた強そうな男が出てきて、こう言いました。「われは日本武尊なり。われをこの地に祀るならば、国を守り、村人たちを守るであろう」。驚いたことに、その男は突然白いキジの姿になって、空高く飛び去ってしまいました。

村人の不思議な夢の話は村中に伝わりました。村人たちは日本武尊をこのお宮の神様として祀り、お宮の名前も「大鳥大明神」と変えることにしました。

それから百五十年ほどたったころ、この地にタカ狩りにやって来た江戸幕府三代将軍の徳川家光が、一羽の白いキジを見つけました。追いかけていくと、キジはこのお宮に向かって飛んでいき、木の間にまぎれて見えなくなってしまいました。キジがどうしても気になった将軍はお宮にも足を運んでお参りし、タカ狩りの手伝いに来ていた村人に「この宮の名前は何というのじゃ？」とたずねると、村人は「大鳥大明神です」と答えました。「ちょうど、この宮へ白いキジが飛んでいくのを見たところじゃった。これからは、この宮を『雉子の宮』と呼ぶのがよからう」

将軍の言葉どおり、その後、村人たちはこのお宮を「雉子の宮」と呼ぶようになりました。

明治時代になってから「雉子神社」と名前が変わりましたが、現在でも近くに住む人たちは昔からの名である「雉子の宮」と親しみを込めて呼んでいます。